北陸支部Ｗｅｂ広報誌

[Ah!] No.45

Contents

■ご挨拶　新年のごあいさつ

吉田　純一　（日本建築学会北陸支部長・福井工業大学教授）

■講演会　開催報告

○富山　これからの子育てと住まい・住環境
富樫　豊（NPO地域における知識の結い）

■建築文化週間2013　開催報告

○石川　金沢リノベーションまちあるきツアー
宮下　智裕（金沢工業大学環境・建築学部建築デザイン学科　准教授）

●お知らせ

○ 北陸支部Web広報誌ＡＨ！への投稿を随時受け付けております。
建築学会北陸支部内（新潟県・長野県・富山県・石川県・福井県）に在住の方であればどなたでも投稿可能です。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。
○賛助会員を募集しております。
　詳しくは下記事務局までお問い合わせの程お願いいたします。

(一社)日本建築学会　北陸支部
〒920-0863　石川県金沢市玉川町15番1号　パークサイドビル3F
Tel: 076-220-5566　/　Fax: 076-220-3344　/　E-mail:aij-h@p2222.nsk.ne.jp

（平成２６年１月６日（月）発行）
Access count: 00379

■北陸支部活動報告

新年のごあいさつ

吉田　純一　（日本建築学会北陸支部長・福井工業大学教授）

日本建築学会北陸支部の会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。各位には、つつがなく、新たな年を迎えられ、心も新たにしていることと思います。今年は午年。子供のころ「スカイホース（天馬）」という名の模型飛行機をつくり、空高く飛ばしましたが、かの飛行機のように皆様にとっても大きく飛翔されますようお祈り申し上げます。

一昨年に支部長を仰せつかって早や1年半、任期の4分の3が過ぎてしまいました。この間、支部長として何をやったのか。月ごとに本部で開催される理事会や支部長会議にはほぼ出席しましたが・・・。それでも石川支所のお世話で7月の支部大会は盛況の中で終えることができ、また、それぞれの支所は年度当初の事業を恙なく、計画通りに実施、支部の各委員会におきましてもつつがなく事業を遂行していただきました。支部長の怠慢にもかかわらず、他の支部に勝るとも劣らない成果を上げることができましたこと、各位のご協力に厚く感謝申し上げます。今年もこれまで同様のご支援をお願い申し上げます。

昨年度は日本建築学会が一般社団法人化し、本部組織が大きく改変、それに伴う支部・支所の組織改変も滞りなく進みました。本年度が支部規程・細則などの実施1年目に当たり、いよいよ新たな出発、門出の年になります。しかしながら、他支部でも同様ですが、当支部でも財政の危機がいよいよ現実味を帯びて参りました。本部から支部への補助金は、個人会員数および企業の賛助会員数を基準に割り出されます。個人会員数に大きな変動はないのですが、還元率が大きい賛助会員数が大きく減少したことが響いているのです。かといって、支部活動を削減するわけにはいかず、現状のまま継続となれば、ほぼ5年後にはプール金が底をついてしまう状態です。昨年暮れの支部役員会でもこのことが議題に上がり、この状況を打破すべく、さしあたり各支所あたり５，６社の企業の入会を目指そうということになりました。

新年を迎えたというのに、暗い話で申し訳ございませんが、北陸支部の運営、活発な活動のためにも、こうした支部財政の緊迫状況をご理解いただき、会員一人一人がお心あたりの企業へ賛助会員としての加入勧誘を展開していただけたらと思います。

東北地方を襲った大震災や大津波、それに伴う福島原発事故によってもたらされた未曾有の大災害の復旧や復興はすでに3年目を迎えようとしていますが、今もって多くの方々が不自由な避難生活を余儀なくされています。人々が安全で、安心して暮らせる社会の構築あるいは豊かな生活環境の創造に関わる建築や建設分野に身を置く者にとって、我が身をつまされる思いです。我々はこうした惨事に対して、いかに関わっていけるのか、関わっていかねばならないのか、真剣に考え、行動を継続していかねばなりません。

北陸支部は、全国8支部の中でも会員数が2番目に少ない小支部ですが、小さいからこそできることもあるはず。ＮＯ１ではなく、ＯＮＬＹ１を求めて、本年度も活発な支部活動を展開していきたいと考えております。 会員各位の今年度のますますのご活躍を祈願します。それがひいては支部の活性化につながっていくはずです。今年もお互い、新たな気持ちで頑張っていきましょう。

講演会　開催報告　～富山支所～

これからの子育てと住まい・住環境

富樫　豊
（NPO地域における知識の結い）

写真1　講師の小澤先生

図1-1　こどもが描く東北復興まちのプランa（こども環境学会復興プランコンペ集2011より）

図1-2　こどもが描く東北復興まちのプランb（こども環境学会復興プランコンペ集2011より

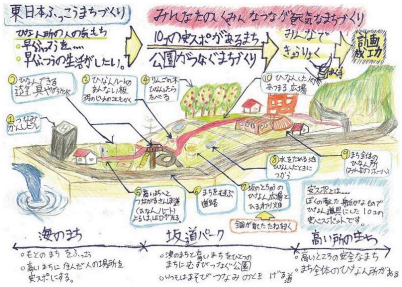

図1-3　こどもが描く東北復興まちのプランc（こども環境学会復興プランコンペ集2011より

2013年10月19日(土) 13:30-15:00、富山産業展示館会議室において、小澤紀美子先生(東京学芸大学名誉教授)を講師にお招きし、一般市民を対象に標記題目の講演会を行った。以下に結果を報告する。

子ども関係や母親クラブの団体に呼びかけたこともあって、当日会場には熱心な主婦の方々がつめかけ一般の方を含めて25名が、小澤先生の講演に聞き入っていた。（写真１）

先生は、最初に子どもの成育に欠かせない環境づくりの必要性を切々と述べられていた。特に、住まいや住環境に対する価値観を取り上げ、これが個人の属性や生活観と深くかかわっていると同時に、社会的・文化的蓄積の上に醸成されていることを指摘しながら、「人と自然の関係の多様性」をもっと生かしていきましょう、と切り出されていた。

続いて、そのような観点から住まい環境や住環境について、皆さんに分かりやすく説明するために、住まいや住環境（まち）にかかわる絵本として「ちいさいおうち」 (バージニア・リー・バートン著：日本での翻訳本出版1954年)や「３びきのかわいいオオカ」(ミユージーン・トリビザス著1994)などを紹介されていた。 そして、それぞれの国の基底にある住文化のスピリッツや住まい・住環境の豊かさ、歴史・文化の織りなす多様性について話を進められた。

後半では、東日本大震災復興について子どもの復興まちづくりのアイデアをいくつか紹介され（図１）、住まいや住環境のデザインにかかわった子どもたちの願いや意見を読み解くことの必要性を説くとともに、未来を創る行為のとしての住まい・住環境のデザインが未来への力を引き出す本質であると力説されていた。 また、街については、街は「屋根のない学校としてさまざまな人々が協働して」学び合う場であり、人を育む場である、と話されていた。

質疑応答では、子どもの視点をどのように住まいづくりに活かせばよいのか、遊びを確保するのはどうすればいいのかなどといった質問が寄せられ、先生は懇切丁寧に応えていた。最後に司会からも、我々は子どもの視点にたち、子どもを元気にする住まいやまちづくりに役立てていきたいとまとめがあり、講演会を成功裏に終えることが出来た。

会が終わった後も、子どもの遊べる場の問題や子どもの行動規制の問題等について、若い母親や父親と先生との間で談義に花を咲かせていた。

建築文化週間2013　開催報告　～石川支所～

金沢リノベーションまちあるきツアー

宮下　智裕
（金沢工業大学環境・建築学部建築デザイン学科　准教授）

図1　カナザワケンチクサンポ vol.2

北陸支部石川支所では、平成25年10月26日（土）に建築文化週間の企画として、「金沢リノベーションまちあるきツアー」を実施しました。北陸新幹線開業を目前として金沢駅前から武蔵地区、さらには香林坊地区に至るエリアを、様々な建築やまちなみを見ながらゆっくりと歩き巡ることで、歴史文化都市としての金沢に魅力を再発見してもらおうというものです。金沢市中心部には各時代の様々な魅力的な建築が現存しています。その様な建築的に魅力ある資産を今後どのように活かしていくかは、建築のみならず、まちづくりの観点においても非常に重要なポイントとなるはずです。また近年、リノベーションにより新たな価値を創出し、魅力的な空間として再生している建築がたくさん現れてきました。そこで、金沢市と協同で製作している建築マップ「カナザワケンチクサンポ」（図1）を手に、見学を通して様々な建築やまちなみの見識を広げると共に、これらの資産の有効活用の可能性を探る機会を提供する事を目的として、この「金沢リノベーションまちあるきツアー」を行いました。「カナザワケンチクサンポ」は金沢市にある様々な近・現代の建築の素晴らしさを一般の方にも分かりやすく説明したものであり、建築単体だけでなくそれらをつなげたまちなみの楽しさも伝えようとするものです。企画および当日の案内は筆者が担当しました。

写真1　香林坊周辺を歩くツアー参加者

まず、金沢駅前から武蔵ヶ辻に至るエリアでは、駅前もてなしドーム、本町にある大正時代に竣工した建物を使った旅館などを見ながら、大規模建築と小さな建築が折り重なるおもしろいまちなみを散策しました。安江町では、町家リノベーションが並ぶmachiya5、横安江商店街などを通りながら、昔ながらのまちなみに新しい風が吹き込まれている様を実感しました。その後、村野藤吾が設計を手掛けた北國銀行武蔵ヶ辻支店を見学し、2009年に元々あった市場空間の良さを残した再開発が行われた近江町市場で雰囲気を楽しみながら昼食をとりました。午後は、武蔵から香林坊地区に至るエリアを見学しました。始めに玉川図書館に立寄り、せせらぎ通り沿いの道を、用水を眺めながら歩きました。このエリアには多くのリノベーション建築が点在しています。様々な年代の方達がまちを楽しんでいる様子を見ていると、リノベーションされた建築達がこれまでのまちなみと相俟って金沢の中心市街地の新しい魅力となっている事をあらためて感じました。その後、金沢学生のまち市民交流館を見学しました。この施設は大正時代の町家をリノベーションした「学生の家」と、旧料亭大広間の部材を用いて新設した「交流ホール」からなる施設です。まちの中心部で学生が活発な活動を行う場所として、この施設が活き活きと使われている様子を見学しました。最後にしいのき迎賓館を見学し、約4時間にわたる「金沢リノベーションまちあるきツアー」を終了しました。

写真2　アートと古いまちなみが重なり合う

写真3　高層ビルと町家のコントラスト

参加者は28名（内学会員7名）で見学中は活発な意見交換なども行われ、金沢在住の参加者の方からも、「はじめて歩いた道が多くあり、新しい発見が数多く

ありました」、といった意見も聞かれ、大変有意義な建築ツアーになったと思います。